

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸が原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 100人 国語B 100人

② 算数A 100人 算数B 100人

5 留意事項

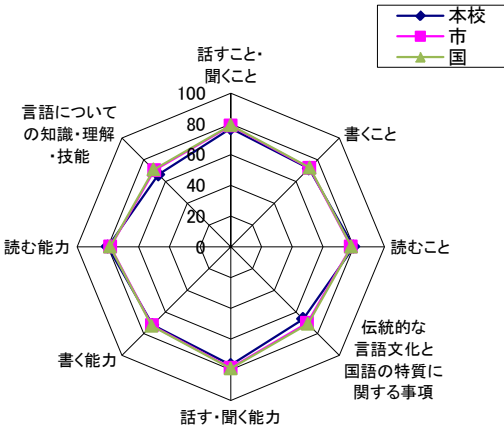
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

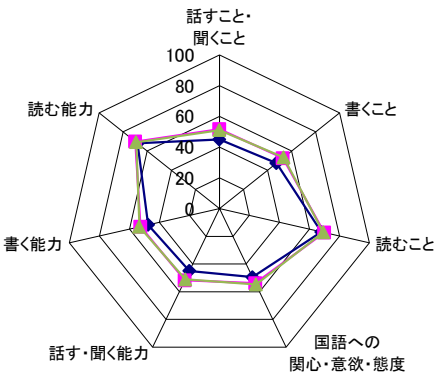
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.0	78.8	79.2
	書くこと	72.0	72.4	72.8
	読むこと	80.0	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.5	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.0	78.8	79.2
	書く能力	72.0	72.4	72.8
	読む能力	80.0	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	66.5	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	45.0	51.7	51.1
	書くこと	47.5	52.7	53.4
	読むこと	68.0	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	49.5	53.8	54.7
	話す・聞く能力	45.0	51.7	51.1
	書く能力	47.5	52.7	53.4
	読む能力	68.0	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

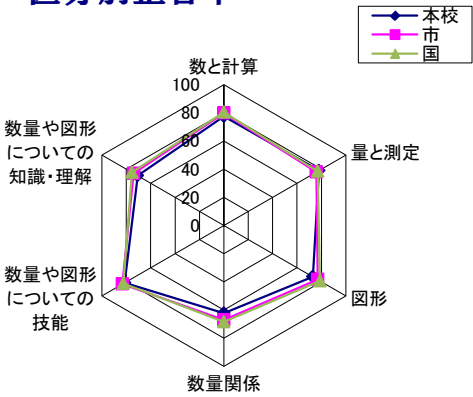
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●主として知識(国語A)では、ほぼ市や全国の平均値であるが、主として活用(国語B)では、市や国の平均値を5ポイント以上下回っている。 ○スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する設問に対しては、正答率が52.0%で市や国の平均値をわずかに上回った。	・話の内容に対する聞き方に課題が見られるため、本問を活用し、「聞き方のポイント～提案の理由に着目する、提案の内容と自分たちの様子を比べながら聞く、提案の効果や妥当性を判断しながら聞く」を復習させる。 ・能動的な聞き方を意識させるように、ふだんの授業や生活の中で、教師や友達の話の意図をしっかりと理解しながら聞く態度を養っていく。
書くこと	●A(知識)領域は市や国の平均値並みであるが、B(活用)での正答率が全体で47.5%と半数を割り、市や国の平均を5ポイント程度下回った。問題によっては、無回答率が10%に達していて、自分で考えて文章を書くことに抵抗がある児童が見られる。 ○目的や意図に応じ、グラフを基に自分の考えを書く問題(B領域)は、県の平均を上回った。	・引用のしかたとその必要性や効果を実感でき、心に残る言葉を引用した本の紹介文をつくるなどの教材に、工夫し取り組ませる。また、「取材したことを整理して書く」に対しては、総合の時間なども活用して、内容の取捨選択や伝えたいことを意識した文の書き換えを繰り返し復習させる。 ・無回答者を減らすため、与えられた課題に対し、解答の見つけ方や、解答文を導き出す書き出しの工夫などの指導を行う。
読むこと	○知識領域では、市や国の平均値を上回った。活用領域では、ほぼ市は県の平均値に迫っていた。 ○知識領域の『おばあさんの飛行機』を読んで、登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択する問題は、正答率が69.0%で、市の平均を7.1ポイント上回った。	・本文を精読できるように、音読の指導をさらに行っていく。 ・繰り返し文を読むことや理解しながら読み進むよう支援していく。教科書に書き込ませたり、つぶやきを拾ったりして自分の考えをもつことを重視した読む授業を行うようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●A領域のみの設問であるが、市の平均より2.4ポイント低かった。 ○ローマ字の設問は3問であったが、「りんご」「ひやく」は市や国の平均を上回り、「あさって」は、市や国の平均を下回った。また、ローマ字については無回答率が17.0%から25%と高かった。	・今後も朝の学習や漢字豆テストを継続的にを行い、力をつけさせていく。教科書に載っている熟語だけでなく、一般的な熟語にも範囲を広げ漢字を応用する力を伸ばすようにする。 ・ローマ字の無回答率が高いことを受け、ローマ字の表記に慣れるように指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

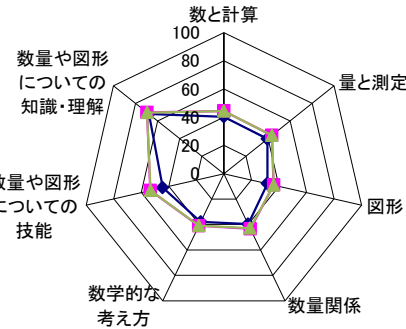
★本年度の国、市と本校の状況
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	77.6	79.9	80.5
	量と測定	78.0	75.9	77.0
	図形	73.0	76.9	78.8
	数量関係	62.3	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	81.4	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	70.7	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	40.3	44.5	44.4
	量と測定	39.4	43.5	43.7
	図形	31.7	36.2	36.3
	数量関係	39.7	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	37.9	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	44.5	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	68.0	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○全般に市や全国の平均に迫る結果であった。 ○算数Aの末位のそろっていない小数の加法は正答率が83.0%で市の74.3%を上回った。 ●算数Bでは、「ハードルとハードルの間隔が5mのコースの、スタート地点から4台目のハードルを、巻尺の何mのところに置けばよいか。」問題は正答率が42.0%で市や国より10ポイント以上低かった。また、縦39cm、横54cmの長方形の厚紙から、1辺9cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く。」問題は、正答率が27.0%、無回答率が25.0%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・本校で実施している、毎週金曜日の朝の学習「算数チャレンジ」の時間を活用し、苦手な分野の復習をさせていく。また、ドリルを活用したり、プリント等の補助教材を活用したりして、授業の中でも問題場面をイメージしながらの問題解決の時間を確保していく。
量と測定	○知識領域は、市・国の平均を上回ったが、活用領域では、4ポイント程度下回った。 ●活用領域で、「角の大きさを基に、式の意味の説明を記述する。」問題の正答率は2%、無回答率は23%であった。また、「示された四角形を並べてできる図形を選ぶ」問題の正答率は、17.0%であった。	・実生活で生かせるような思考力を要する教科書巻末の問題やプリントの教材などを取り上げて児童に挑戦させていく。また、必要に応じて具体物を用いながら、理解を図っていく。
図形	●算数Aの正答率は73.0%で、全国より5.8ポイント下回っていた。特に、「直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ」問題は、正答率が70.0%で、全国を8.0ポイント下回った。また、同問題の無回答率は、9.0%であった。 ○算数Bの「1辺が9cmの正方形に内接する円を描くために、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ」問題では、正答率が76.0%で、県の平均をわずかに上回った。	・立体図形における、辺や面の垂直・平行に関しては、理解の不十分な児童が見られるので、具体物を使いながら、十分に補っていく。
数量関係	●算数Aは正答率62.3%で、市の平均より4.8ポイント下回った。算数Bでは、正答率39.7%で市の平均より3.8ポイント下回った。「テープ全体の長さを基にした時の赤い部分の長さの割合が、一番大きいものを選ぶ」問題では、正答率が62.0%で県の平均を9.2ポイント下回った。 ●算数Bは正答率が39.7%で市の平均を3.8ポイント下回っている。 ○「示された事柄について、2つの表を音に読み取ることができない事柄を特定する」問題や「A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて、読み取った事柄として正しくないわけを記述する」問題については、県や国の平均を上回っている。	・この分野も、単元と単元の間や少人数学習のときに、思考力を要する教科書巻末の問題などを取り上げて児童に挑戦させてきたので、それを今後も続ける。 ・間違いを指摘する問題だけでなく、より積極的に活用を図れる問題場面を取り上げ、問題解決に当たらせる。

宇都宮市立御幸が原小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 朝食を毎日食べている児童の割合は市と同程度である。(本校88.5%, 全国89.4%)
- 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していると回答した児童の割合がわずかに高い。(本校32.8%, 県30.2%, 全国26.3%)
- 友達の前で発表するのが得意であると回答した児童の割合が低い。(本校19.7%, 県19.2%, 全国21.2%)
- 将来の夢や目標を持っていると回答した児童の割合が低く(本校59.0%, 県68.5%, 全国68.6%)となっており、県の平均よりも9.5ポイント低い値となっている。
- 平日にテレビゲームをしたり、携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットを使用したりする時間は、県や国と同程度である。
- 休日に、全く勉強しないと回答した児童は3.3%であった。
- 平日に全く読書をしないと回答した児童が30.3%で、県の18.6%, 国の20.6%と比較すると、かなり高い。
- 家庭学習において、自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が高い。(本校36.9%, 県28.8%, 全国26.7%)
- 家で、宿題をしていると回答した児童は88.5%(県88.4%, 全国88.0%)と県や全国と同程度である。全く宿題をしないと回答した児童は1.6%いる。
- 人の気持ちが分かる人間や人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が多い。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている児童の割合が85.2%と高く、いじめはいけないと理解できている。
- 「総合的な学習」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思っている児童が多い。
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの龍が分かるように気を付けていると答えた児童が多い。
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと考えている児童が多い。
- 指導上の工夫
- ・各教科等において、達成感や成就感を味わわせる活動を意図的に取り入れ、できたという喜びを積み重ねていくことにより困難に立ち向かう気持ちを育てていく。また、道徳の授業を活用し、失敗を恐れずに挑戦しようとする気持ちを育てていく。
 - ・全員が発表する機会を設けるとともに、友達の意見を尊重し、違った考えであっても認め合う環境をつくる。また、各教科や会話科の時間を活用して、良い聞き方の指導を継続して行っていく。
 - ・家庭学習の取り組み方について、継続して指導を行う。自主学習については、良い取り組みを紹介し、児童の意識を高めていく。自分で考えて取り組むことが難しい児童には、適切な課題を与えるようにし、全員が家庭学習に取り組むことができるように支援する。
 - ・平日に全く読書をしない児童の割合が高いことから、家庭との連携を深めながら読書好きになるように指導していく。